

海津市まちづくり委員会「第14回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日	平成22年9月28日(火)	
開催場所	海津市役所海津庁舎3階「第3会議室」	
分科会委員定数	14名	
開 会	午後1時30分	
閉 会	午後3時30分	
出席者	○分科会委員	
	公募市民	村上 碩也
	公募市民	古川 義弘
	公募市民	藤田 繁己
	公募市民	本多 高洲
	公募市民	加々本 紘一
	公募市民	柴田 夕ヨ子
	公募市民	堀田 義郎
	公募市民	坂本 由貴
	公募市民	伊藤 祥子
	女性人材リスト登録者	安部 晶子
	海津市自治連合会代表	諏訪 薫
	岐阜経済大学経済学部教授	池 永輝之
	○事務局 企画政策課 係長	
	〃	後藤 政樹
	主任	毛利 卓司
欠席者	高須生活学校代表	加藤 佳余子
	女性人材リスト登録者	石川 晴代

会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告書の一次素案について
 - ・ 報告書の内容について
 - ・ 企画案の確認と提案事項の選定について
 - ・ 提案内容の詳細（ボリューム、体裁等）について
4. その他
5. 閉会

会議録（要約）

事務局	<p>ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第14回目の会議を開催させていただきます。 はじめに会長よりあいさつをお願いします。</p>
会 長	<p>（あいさつ）</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 それでは報告書の一次素案につきまして、説明させていただきますので、よろしくをお願いします。 報告書素案の内容は、ワークショップで要因の洗い出しをしたことを整理したもの、たくさんある要因の中で検討の方向性を打ち出すために議論した重要課題、それを受けての提案の他、分科会の会議経過や委員名簿も掲載させていただきました。 4 ページの提案のページは、別紙となっておりますがこれは、今までグループ討議にて企画していただいたものや、委員個人から企画シートの提出があったもの、その他事務局案も含めまして、箇条書きにて整理したものです。 また、「提案」のほかに「要望」というところがあります。これは、メインとなる対策ではないが市としてぜひ実施してほしい、または検討してほしいことを掲載します。「その他アイデア一覧」については、提案、要望のどちらにも含めませんでした。皆さんのアイデアがあったことを紹介するため掲載したいと思っています。 この別紙が報告書のメインとなる部分ですので、残りの分科会での協議は、こちらを中心として進めさせていただきたいと思っております。報告書全体の話は、提案内容が固まった後に協議していただきたいと考えております。 ここまででご質問等ありましたらお願いします。</p> <p>（質問なし）</p> <p>次に、「企画案の確認と提案事項の選定」に移りたいと思っておりますが、40項目ほど箇条書きにしたものがあります。まず1つずつ読み上げますので、みなさんと確認したいと思います。</p> <p>（企画 40 項目確認）</p> <p>提案事項については、みなさんそれぞれのお考えがあると思っておりますが、どのような方法で決定していけば良いでしょうか。</p>
A委員	<p>提案する事は4つ程度に絞る。人口流出、定住促進の対策ですから、産業・教育・住環境・地域コミュニティに分けて絞ってはどうですか。</p>
B委員	<p>報告書P3の重要課題と、P2の分類とどうつながるのか分かりませんが。</p>
C委員	<p>（重要課題の設定について）経済的な支援も必要であるが、地域での思い出</p>

	<p>が愛着となり、そうした気持ちを育てることという意味でコミュニティがあるんですよね。</p>
A委員	<p>(重要課題の設定について) コミュニティを元気にする仕掛けづくりとありますが、とても難しいことで、誰にどういった方法で行うのかという事が重要なことだと思います。</p>
事務局	<p>選定の方法で、A委員よりご提案がありました。 B委員のご指摘ですが、今までの議論で多様な要因が挙げられてきましたが、それに対応する対策を全て分科会で議論していくことは時間的にも難しいと思われます。そこで、重要課題を設定する際の議論で、2つの方向性というか課題が決められたわけです。言葉足らずな表現でしたら修正していただきたいと思います。あくまでも素案ですので、これから皆さんでご協議していただければ良いかと思います。 ここで少し休憩をとらせていただきます。</p> <p>(休憩)</p>
池永先生	<p>それでは、選定の方法や議論に先立ちまして、池永先生からポイントやアドバイスなどをお願いしたいと思います。</p> <p>列挙されている対策案を分野ごとに整理すると絞りやすいかと思います。私が思いますには、みなさんが海津をどういうまちにするのか、まちのコンセプトと言うか、大垣市の場合だと「子育て日本一」といったスローガンがありますが、そういったものが前提にあり、海津市が他の地域に語れるものがあって、そういうものを作り上げたら、流出が抑えられないだろうか、また、そういったことが考えられないだろうかと思います。まちが目指す姿があってそのためにはこういった対策を施す、そのような意識を持って取り組んでいただくことが良いのではないかと考えます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、どういった対策を選んで提案していくかなんですが、村上委員からご提案のあった分野を絞ってから決めていくという方法と、先ほどの休憩中にある委員からご提案をいただいたんですが、各委員さんが定住対策・人口流出抑止対策として、有効あるいは必要なことを選んでいき、その中でグループワークで討議して絞っていったらどうかとのご意見をいただきましたが、いかがでしたでしょうか。</p>
C委員	<p>どういった要因があって、それに対する方法を議論してきたのだから、分野毎に対策を列挙して整理・精査して提案するのが良いのではないのでしょうか。</p>
B委員	<p>これらの対策では、高齢化問題にまったく触れてはおりません。高齢者は人口流出問題とは関係が薄いかもしれませんが、高齢になった時に不安があるまちでは、入ってこないのではないのでしょうか。定住対策としては必要なので提案の中で触れていただいた方が良いと思います。</p>

A委員	まちのあるべき姿として、海津市には市民憲章があります。それを踏まえて、あるべき姿を考えながら対策を立てていかなければならないと思います。
D委員	大垣市の子育て日本一宣言などの話もありましたが、例えば海津市を福祉特区のまちにして雇用に活かすとか、そうしたことは1つの提案としてはあると思いますが、そうした議論はしてきませんでした。であるならば、流出の原因をいくつかあげてきましたが、それに対応する対策を考えるということになるのですが、すべて個々に挙げるということは、提案としてはどうかと思います。 重要課題と言うのは、2つ、3つ大まかに出せばいいわけで、こういう原因があってこういう問題がある、また、いろんな経緯や事情がある、であるから事務局が出したような2つの重要課題を立て、じゃあ具体策はということで、そのあとに5つなら5つ、この後につけていく。でもこの内容では具体性がないので、もう少し中身を練ってつける、こういう方法で良いのではないのでしょうか。
事務局	いま、提案の候補としてある40の企画がありますが、すべて箇条書きで書かれています。提案として出すには、もう少し具体的というか肉付けなりしていく必要があると思います。その場合、当然議論して作っていくわけですから、これらすべてを提案するという事は、時間的にも難しいと考えております。ですから先ほど、古川委員が言われたような方法を事務局も考えております。
A委員	年齢層をはっきり決めたら、もっと絞れると思います。例えば小中高生、大学生をターゲットにするのか、その上の世代なのか、まずターゲットを絞ることが良いのではないのでしょうか。
E委員	私も同じくターゲットを決めておいてから絞っていく方が良いと思います。
池永先生	今までの議論では若年世代という表現でした。本分科会は、20歳代30歳代の市外転出が多いということで、なんとかそれを抑止する方法を検討していきましようということから立ち上がったわけです。そうしたことから、20～30歳代をターゲットとし、定住促進対策として委員の皆さんが必要だ、有効だと考えられる企画をいくつか選んでいただき、それをグループワークで精査していく方法で進めるということはどうでしょうか。
事務局	それでは、本日は時間がなくなってまいりましたので、次回の分科会は若年層である20～30歳代をターゲットとし、定住対策・人口流出抑止対策として有効なものを、お一人ずつ発表していただき、それらをグループワークで整理していくということによろしいでしょうか。
A委員	私は小中学生、将来を担う世代に対する教育施策も提案していく必要があると思います。
事務局	ひとまず、次回の分科会の内容に関しては20～30歳代で進めさせていただ

	きたいと思います。
F委員	以前、小学生や中学生のワークショップの模造紙（成果発表）を見せていただきましたが、あれは何だったんですか。20～30 歳代に限定されるようですが、どうしてそうなるんですか。
C委員	子どもに関する事がなくなっているということはないと思います。地域コミュニティの対策の中で十分表現できると思いますが。
事務局	以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第 14 回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。